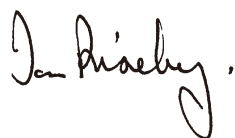


2017年～2018年度 国際ロータリーのテーマ



ロータリー：  
変化をもたらす

2017～18年度 国際ロータリー会長  
イアン H.S. ライズリー 氏



10月は経済と地域社会の発展・  
米山月間です。



『乗鞍』

写真提供…河合隆会員

2017～2018年度(第60期 小原年度)

## 10月第4例会プログラム

- 点 鐘
- 国歌斉唱
- ロータリーソング
- 来賓紹介
- ビジター紹介
- 幹事報告・委員会報告
- 新会員入会式
- 会 食
- 米山・財団目録贈呈
- ガバナー卓話
- にここにBOX
- 出席報告
- 点 鐘
- ロータリーソング

10月26日(第2915回) VOL. 15

会 長

奉仕の理想

会 長

親睦活動委員会

保延 輝文 ガバナー

S.A.A

出席委員会

会 長

我等の生業

RI(国際ロータリー)の創立:1905(明治38) 日本のロータリー創立:1920(大正9)

### RI第2820地区 茨城県

RI(国際ロータリー) 承認 日本国内247番

創立 1958年2月14日(昭和33年)

承認 1958年3月7日(昭和33年)

事務局：土浦市中央2-16-9 (常陽銀行4F)

U R L <http://www.tsuchiura-rc.org>

例会場：L'AUBE Kasumigaura

### 土浦ロータリークラブ

姉妹クラブ RI第3520地区 台北陽明扶輪社

会長 小原 芳道 幹事 平島 隆之

TEL 029-822-1250 FAX 029-824-8830

E-mail [office@tsuchiura-rc.org](mailto:office@tsuchiura-rc.org)

毎週木曜日 12:30～13:30

★ ★ ★ ★ ★  
**60<sup>th</sup>**  
**ANNIVERSARY**

# 歓迎 2820地区 保延輝文ガバナー



国際ロータリー第2820地区  
2017-2018年度

ほのべ てるふみ  
ガバナー 保延 輝文  
(石岡ロータリークラブ)

- 生年月日 1950年7月3日
- 最終学歴 慶應義塾大学 商学部
- 職業分類 運輸業
- 事業所及び役職 旭運輸(株) 代表取締役

## 【ロータリー歴】

- 1994年1月 石岡ロータリークラブ入会
- 2002-2006年度 日・豪友好地区担当 (4期)
- 2004-2005年度 クラブ幹事
- 2006-2007年度 クラブ会長
- 2008-2009年度 財団寄付・ポリオ委員長
- 2009-2010年度 第6分区ガバナー補佐
- 2010-2011年度 クラブ奉仕 (広報・雑誌) 委員長
- 2011-2013年度 社会奉仕委員会 総括委員長 (2期)
- 2013-2015年度 社会奉仕委員会 (2期)
- 2015-2016年度 職業奉仕委員会 総括委員長

## 【その他】

- マルチプル・ポール・ハリス・フェロー(4)
- 第4回米山功労者 マルチプル

## 【ガバナー紹介】

### 未来へチャレンジ

地区の方針を「未来へチャレンジ」に決めたとと言われて、私は思わず自分が中学校の卒業記念誌に寄せた作文の表題を思い出してしまいました。今なお、夢多き少年のような彼の性格と心情をズバリ言い表しているように思えたからです。「何に」チャレンジするのかと問うと、延々と答えが返ってきました。大の議論好きなのです。クラブでも議論に熱が入り過ぎてしまうことがあります。しかし会員たちから「ロータリーをそんなに難しくしないでください」と言われると、「ごめん、またやってしまったね」とすかさず話題を変えて場を和ます術も備えています。

彼の信条は「信頼」と「ポジティブ」。後ろは見ず前だけを観て、ひたすらポジティブに生きてきたとのこと。21歳で父親を亡くし、大学卒業を待って直ちに家業の運送業を継承、以来社業に励んでこれを隆盛に導き、今年めでたく創業100周年を迎えると聞き、彼の人物像がよりはっきりと見えてきました。併せて、奥さまのお話からは彼の優しさと包容力の大きさがうかがえます。

地区で、幾つもの奉仕委員会の総括委員長やガバナー補佐などを歴任。「信頼」と「ポジティブ」により培われてきたものが、いよいよ地区のトップ・リーダーとなって開花します。得意のジルバの軽やかなステップのように、存分に力量が発揮されることを期待します。

石岡RC 山本 進氏 (ロータリーの友 2017-18年度7月号より)

## 米山奨学生卓話「<私>という本」

もし私が一冊の本だったら、どんな本だろう。私が見た本、聞いた曲、旅に出た先に出会った人が今の私を作りあげたかもしれません。

もし私が一冊の本だったら、目次は「どこから来た」「どんな活動に参加したか」「どのものに興味を持っているか」、また「どんなことを研究しているか」からなると思う。主人公は中国吉林省にある小さい町で生まれた。大学、大学院で四川、北京にも長く滞在していた。また短期留学で日本の名古屋大学、早稲田大学も転々とし、現在筑波大学の博士後期課程に在籍している。

今まで色々ボランティア活動に参加したが、一番印象深かったのはイランのメディアボランティア活動だった。イランに滞在している一ヶ月半の間に、前後3回大きい旅を企画し、現地の大学生とイランの北、西、南にある15都市を回って、取材報道活動を行なった。そして、帰国後、『中国国家旅行』という雑誌にイランで見た聞いたことを8ページの記事にまとめて発表した。日本に来てから、『はなこりあ』という踊りの団体に入って、踊りの活動を通し異文化交流に力を入れた。原宿で元氣祭りに参加し、また川越市に唐人揃い祭や土浦の八豊祭にも出た。少しでも自分の力で世界の形、人々の意識を変革しようと色々活動に参加する事が自分の狙いである。

そして、趣味といえば、山登りがその一つだと挙げられる。大学時代からテントで野宿し、中国の山々を満喫してきた。日本に来てから、富士山はもちろん、特に北アルプスの山に魅了され、時々旅に出る。一昨年北アルプス連走で黒部五郎、三俣蓮華、双六を登ってきた。また、日本人の先生4人を連れて、中国四川省の四姑娘山に登って、大峰(5025m)まで上がり、最年長の先生は78歳だった。こうして自分を通して、中国の美しさも日本の方にも伝わっている。

そして最後に、自分が何を研究しているかという、日本語と中国語の比喩の違いである。日本語では、「ハラワタが煮えくり返る」「怒りが湧く」「気持ちが溢れる」のような表現で、「感情」を「液体」に喩えている。中国語では、「怒気冲冲（プンプンと怒る）」「七窍生烟（頭の7つの穴から煙が出る）」のような表現で、「感情」を「気体」に喩えている。また、中国語は<個体>として物事を捉える傾向があり、「踹了一脚（蹴った）」「打了一拳（殴った）」のように、身体動作まで数えられる。日本語では<連続体>として物事を捉えている。このように、日々比喩の世界で暮らしていて、これからも<私>という本に多彩な絵画を添えたいと思います。本の続編を楽しみにしてください！



## クラブフォーラム

2017年10月19日(木) 次週のガバナー公式訪問についてのクラブフォーラムが行われました。

